

JAMA NEWS

NO. 35

The Japanese Association of Management Accounting

日本管理会計学会 〒525-8577 滋賀県草津市野路東1丁目1-1 立命館大学経営学部 日本管理会計学会事務局

2012年度年次全国大会記

大阪学院大学 後藤晃範

統一論題 管理会計研究と方法論

日本管理会計学会 2012 年度年次全国大会が、平成 24 年 8 月 24 日（金）から 26 日（日）の 3 日間、国士館大学において開催された（準備委員長：白銀良三氏）。24 日には、学会賞審査委員会、常務理事会、理事会、理事懇親会が開催された。25 日は 9 時半から、6 会場に分かれ、計 18 の自由論題報告がおこなわれ、その後、会員総会、記念講演に続き、統一論題報告がおこなわれた。統一論題報告終了後、午後 6 時すぎより、スカイラウンジで会員懇親会がおこなわれた。翌 26 日は 9 時半から前日と同じく 6 会場で計 30 報告がなされた後、統一論題の討論がおこなわれた。

<記念講演>

25 日午後 2 時半より、倉重英樹氏（株式会社シグマクシス）による記念講演がおこなわれた。テーマは「知識社会における組織運営」である。まず、司会の白銀良三氏より、倉重氏がこれまで日本管理会計学会副理事長を務められ、功績賞も受賞されるなど、日本管理会計学会に対して多大な功績のある方であることが紹介され、倉重氏の講演となった。

講演は、世界の変革が起こっている時代にあって、今後の企業および個人がどのように変革していかなければならないのかということがメインテーマであった。

世界の国々の人口とその経時の変化の様子から、今後社会は、工業社会から知識社会へ転換されることをドラッカーの言葉を引用して説明され、知識社会における企業のあり方について、倉重氏の持論をお話頂いた。知識社会においては、デジタル IT の利用、人「財」の活用、未来管理の 3 点が必要であるとのことであった。

また、倉重氏は、これまでの経営者として、すばらしい手腕を発揮してこられたが、その要因は、従来の工業社会で用いられている「モノ作りモデル」と知識社会で必要となる「コト作りモデル」の融合によって、経営をおこなってきたことであると話し頂いた。

最後に、これからの知識社会においては、組織は「コト作りモデルの構築」、「ひとの動きを見る眼」、「可視化／未来管理」、個人は「自分の仕事の構築」、「自分のイノベーション」、「やるべきことよりやりたいこと」が必要であることを説明され、講演は終了した。倉重氏の「人」に注目をした講演が大変印象的であった。

<統一論題報告>

記念講演終了後、山本達司氏（大阪大学大学院）を座長として統一論題報告がなされた。テーマは、「管理会計研究と方法論」である。報告は、管理会計研究方法論から分析的研究、実証分析、実験研究、質的研究の 4 つについて、次のとおり報告がなされた。なお、報告の概要は報告者から頂いたものである。

第 1 報告：渡邊章好氏（東京経済大学）「管理会計における分析的手法の意図と貢献」

本報告では、エージェンシー理論や産業組織論を応用した管理会計実務の説明理論構築を目指す分析的研究について、その意図とそれがもたらす貢献について述べた。このような分析的研究は、実務が機能する条件や現実に機能している実務に潜むメカニズムを明らかにすることを意図し、現実を簡略化したモデルを用いる点に特徴がある。そのため、分析的研究による成果を実務にそのまま適用することは難しく、このことが、分析的研究に対する批判の源泉となっている。し

かし、分析的研究による成果を積み重ねることで、管理会計の伝統的知見という核の部分により充実させることが期待できる。したがって、管理会計における分析的研究は、管理会計教育への貢献が大きいと言える。

第 2 報告：木村史彦氏（東北大学）「管理会計研究における実証研究の特徴と課題—アーカイバルデータを用いた実証研究に争点を当てて—」

本報告では、アーカイバルデータを用いた実証研究（以下、実証研究とする）の特徴と課題を、一般的な実証研究の枠組みに沿って概説し、管理会計研究における今後の実証研究のあり方について検討した。近年、日本の会計研究においても実証研究が増加傾向にあり、これは管理会計研究においても顕著である。実証研究は様々な研究テーマ・課題の下で設定された仮説や命題を検証することができ、その知見の蓄積は、管理会計研究および実務に対して大きな貢献を果たしうるものである。

しかしながら、実証研究には多くの限界があり、それを把握しておくことは重要である。そこには、仮説設定におけるバイアス、変数を特定化する際の分析者の主観性、実証モデルの選択、検証結果の解釈の問題が含まれる。こうした限界を克服するためには、検証手続きの精緻化、適切な統計手法の適用とともに、他の研究方法とのコラボレーションが重要になると考えられる。

第 3 報告：田口聡志氏（同志社大学）「管理会計における実験研究の位置付けを巡って」

本報告では、管理会計における実験研究の方法論的な意義を整理すると共に、管理会計研究をより豊かにしていくために実験が担っていくべき役割について検討を行った。実験研究は、(1)データのハンドリングが容易、(2)事前検証が可能（意図せざる帰結の発見が可能）、(3)内的妥当性が高い、という優位性を持ち、また、2つのタイプがある（複数人間の意思決定を取り

扱いメカニズムの検証が得意な経済実験と、個人単体の意思決定を取り扱いヒトの心理バイアスの検証が得意な心理実験）。管理会計では、主にマネジメント・コントロールの領域で実験が用いられ、また、特に心理実験のウェイトが高い。今後は、心理実験と経済実験との融合を図り、また、他の研究手法と良好なコラボレーションを図っていくことが望まれる。

第 4 報告：木村彰吾氏（名古屋大学）「管理会計研究における質的研究方法論の意義：実務とのインタラクション」

本報告では、質的研究方法（Qualitative Research）あるいはフィールドワークと位置づけられる Case Study、Action Research、Ethnography、Grounded Theory を取り上げ、その意義について管理会計研究目的に関わらせて考察した。

McKinsey が会計のマネジメントへの役立ちを体系化することを意図して著した「管理会計（Managerial Accounting）」を管理会計の原点と位置づけると、管理会計研究の原点は、管理会計実践を観察し体系化すること、そして管理会計手法を開発することであることを説明した。このように理解すると、質的研究方法は、管理会計技法の発見、新しい管理会計手法の開発、管理会計技法の運用にかかわる発見、管理会計プロセスの記述・説明・分析という貢献をなしたと言える。その一方で、理論の普遍化への制約や学術的厳密さの欠如という限界もあることを指摘した。こうした考察を踏まえて、実務との適度な距離感を保ちながら、マルチ・メソドロジーにより学術的厳密さを向上させる必要があることをまとめとして主張した。

翌 26 日は、午後 2 時から統一論題討論が行われた。前日の報告の概要をお話頂いた後、活発な議論がなされたが、時間となり、最後に座長からのまとめの後、大会は盛会のうちに終了した。

2013年度年次全国大会 立命館大学に決まる！

2013年度年次全国大会が次のとおり決定いたしましたのでお知らせいたします。なお、詳細については追ってお知らせいたします。

- 日程：9月13日(金)～9月15日(日)
- 場所：立命館大学びわこ・くさつキャンパス
- 大会準備委員長：齋藤 雅通氏

学会賞決定!

特別賞、功績賞の審査委員会の審議の結果を受けて、2012年8月24日開催の第4回常務理事会において、特別賞1名と功績賞2名が決定しました。2012年度会員総会の中で受賞式が行なわれ、浅田孝幸会長より賞状および副賞が授与されました。おめでとうございます。

《特別賞》

佐藤紘光氏

《功績賞》

笠井賢治氏

竹森一正氏

論文賞、文献賞および奨励賞の審査委員会の審議の結果を受けて、2012年8月24日開催の第4回常務理事会において、本年度の論文賞、文献賞および奨励賞が次の4氏に決まりました。2012年度会員総会の中で受賞式が行なわれ、会長より賞状と副賞が授与されました。おめでとうございます。

《論文賞》

該当者なし

《文献賞》

徳崎 進氏

『VBMにおける業績評価の財務業績効果に関する考察：事業単位の価値創造と利益管理・原価管理の関係性』
関西学院大学出版社、2012年2月刊。

中島洋行氏

『ライフサイクル・コストニング：イギリスにおける展開』創成社、2011年10月刊。

《奨励賞》

衣笠陽子氏

「病院経営における管理会計の機能：病院予算を中軸とした総合管理」

『管理会計学』2012年、第20巻第2号。

山田哲弘氏

「報告利益と課税所得の関係が利益調整行動に与える影響」

『管理会計学』2012年、第20巻第2号。

学会業務日誌

2012年4月14日(土)

▼第1回常務理事会開催(大阪成蹊短期大学)

▼第1回理事会開催(大阪成蹊短期大学)

- ◆ 2011年度事業報告案が審議されました。
- ◆ 2012年度事業計画案が審議されました。

2012年7月21日(土)

▼第2回常務理事会開催(北海道大学)

- ◆ 2011年度収支決算案および2012年度収支予算案が審議されました。
- ◆ 学会賞受賞者について審議されました。

2012年8月24日(金)

▼第3回常務理事会開催 (国士館大学)

▼第2回理事会開催 (国士館大学)

- ◆ 2012年度収支予算案が審議されました。
- ◆ 名簿の隔年発行について審議されました。
- ◆ スタディグループ創設について検討されました。
- ◆ 学会賞受賞者について審議されました。
- ◆ 学会賞規定の改正について検討されました。
- ◆ 2012年度第2回国際学会参加費の助成について審議されました。

2012年12月8日(土)

▼第4回常務理事会開催 (玉川大学)

- ◆ スタディグループ創設について検討されました。
- ◆ 学会賞規定の改正について検討されました。
- ◆ 2013年度第1回国際学会参加費の助成について審議されました。
- ◆ 2012年12月8日現在, 正会員: 651名, 準会員: 86名, 賛助会員: 8社, 特別会員: 2名, 合計会員数は747会員であることが報告されました。

新入会員の紹介

- 正会員(敬称略)
13名入会
- 準会員(敬称略)
7名入会

2012年12月8日現在

事務局からのお知らせ

- 2013年度第1回フォーラムは, 4月13日(土)に南山大学において開催される予定です。
- 学会のイベント情報等を学会公式ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。
- 会員名簿の記載事項(所属, 住所など)に変更等が生じた場合には, 速やかに学会事務局までご連絡ください。なお, 会員種類の変更には「会員種類変更申込書」の提出が必要です。捺印の上, 学会事務局にご郵送ください。申込書は, 学会公式ホームページで入手できます。
- フォーラムやリサーチセミナーの案内等, 会員宛の連絡にEメールを活用したいと考えています。Eメールアドレスを未登録の方は, 学会事務局までご連絡ください。また, すでに登録されている方で, 案内等が届かない, あるいは, Eメールアドレスに変更があった場合には, 速やかに学会事務局までご連絡ください。

日本管理会計学会広報 責任者 : 伊藤和憲

メンバー : 小倉 昇, 尾畑 裕, 河合 久, 崎 章浩, 白銀良三, 岩田弘尚

発行機関 : 日本管理会計学会

《本部事務局》 〒525-8577 滋賀県草津市野路東1丁目1-1 立命館大学経営学部 日本管理会計学会事務局

E-mail : jama-info@sitejama.org<http://www.sitejama.org/>